

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@city.tomakomai.hokkaido.jp
第 4 号 平成 28 年 7 月 22 日発行



より良い教育を目指すために

校長 一谷 浩之

今日で1学期が終了しました。子ども達は頑張りの証である通知表「清水の子」を持って帰って帰りました。家庭で子ども達は、努力したことは褒められ、もう少し努力して欲しいところは激励されることでしょう。

さて、我々教職員も1学期が終わった時点で成果と課題を振り返らなくてはなりません。清水小学校の教育活動は絶えず点検し改善していくことが求められているからです。

私は年度当初、職員に示したテーマ「統一感を持ったチーム清水」のもと4点の重点を設定し教育活動の改善を図ってきました。

第1は学習面です。日常の授業改善を推進し、子ども達に「わかった」（知識理解）「できた」（活用能力）と言わせる授業をすることです。その結果、子ども達に授業の中で大きな達成感を持たせようとする物です。

第2は特別な配慮です。教室の中には様々な状況の子ども達が勉強しています。みんなそれぞれ別々の得意分野と苦手感を持っています。それぞれの子が持つ「困り感」を教師が理解し、適切な指導方法を探ることや抵抗のない学習環境を作ってあげる必要があります。「みんないっしょに」の合い言葉で組織として一人一人の子どもに関わることを目指しています。

第3は健康です。健やかな体を育むために基本となる体力を向上させることです。グラウンドに日常的に遊びの中で体力向上を図れるようドッジボールコートを設置したり、体力テストを積極的に活用し体力作りの気運を高めることです。「いっぱい遊んで疲れたよ」と子ども達が言えるよう環境を整えます。

第4は生徒指導です。「いじめはどんなことがあっても許されないことだ」と全ての子が言えるよう友達関係の構築を生徒指導として図っていきます。友達同士がより相手のことを理解し合い協調性を持って生活する人間性を育みます。「たのしく なかよく」の言葉に込められた本当の意味を子ども達にわからせることをします。

さて、1学期はどれくらい達成できたでしょうか。我々は中間検証をして2学期に臨みます。保護者、児童には12月に学校評価アンケートという形でご意見を頂きます。努力したことは褒められ、もう少し努力して欲しいところは激励されることでしょう。

これからもよろしくお願い致します。

